

芦田川さかなマップ

2024年9月29日作成

凡例 確認マーク(○印)は左側が最新年度です。

- 2024年 ● 2019年 ● 2013年 ● 2007年 (特) 特定外来種
 - 2023年 ● 2017年 ● 2011年 ● 2006年
 - 2022年 ● 2016年 ● 2010年 ● 2005年
 - 2021年 ● 2015年 ● 2009年 ● 2008年
 - 2020年 ● 2014年 ● 2008年
- きれいな川に住む魚など、芦田川にとって貴重な種類。

調査した場所

出口川は町の中をながれていて、生活排水が流れこむ川である。川岸には草が茂り生えているが、雑草に踏み込みが行われていて、魚のすまいが減っている。川幅が狭く流れがゆるい。川底は砂が積もっていて魚の種類が少く、カワヨシノボリが定着している。

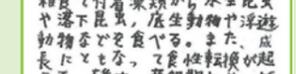
出口川



カワヨシノボリ
中部地方以西の西日本に住む。上流河川の流れのゆるやかな所に住み、藻類や小型の水生昆虫を食べる。止水域ではなぜか生息できない。



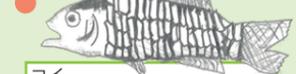
オイカワ
関東以西の本州、四国、九州に分布し、河川中・下流域および湖沼に広く生息する。雑食で付着藻類から水生昆虫や藻下昆布、底生動物や浮遊動物などを食べる。また、成長してもなつて産卵期になると、産卵期には、産卵期に出る。とてもきれいな川に住む魚が少なくなっている。



メダカ
本州以前に広く分布し、池・水田や用水、河川の下流域など、流れのゆるやかな所に生息する。動物・植物プランクトンや水田に落ちた小さな昆虫などを食べる雑食性。近年は、水路コシノボリなどの開闢が進み、近年に住み場が失われている。



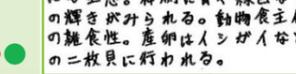
コイ
日本各地に分布。流れのゆるやかな淵などにすむ。岸辺の植物や浅瀬の水草などに産卵する。雑食性で、底生動物のタニシやイトミミズ、水草などを食べる。



ナマス
日本海側では富山県以西、太平洋側では静岡県以西の本州、四国、九州に分布し上流部の植物の根回りなどにみられる。ワロコがとも小さく、体長はヌメヌメしている。



カワヒガイ
濃尾平野以西から九州北西部の中下流域に生息している。夏季には本流から水を引く用水路にも生息。体側に青や緑色の輝き状がみられる。動物性主体の雑食性。産卵はメダカなどの二枚貝に行われる。



ムギツク



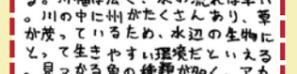
ドンコ

出口川で見つけた生物

- ・カワゲラ ・オオシマトビケラ ・ヒラタドROMシ ・コオニヤンマ
- ・カワニナ ・ハグロトンボ ・シジミ属 ・スジエビ ・ギンヤンマ
- ・アメンボ ・ヒル ・サナエトンボ科 ・タニシ ・ヌマエビ科
- ・ヒゲナガカワトビケラ ・カゲロウ目 ・コヤマトンボ
- ・コシボシヤンマ ・シオカラトンボ属 ・プラナリア

府中大渡橋

調査した場所
田畑の間に家がまばらにあるような場所。比較的水はきれいである。川幅は広く、水の流れは早い。川の中に竹がたかさんあり、草が茂っているため、水辺の生物にと、生きやすい環境だといえる。見られる魚の種類が多く、アカザも見られる。川岸が整備されており、川の中に入りやすくなっている。



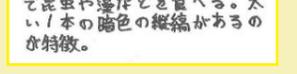
アカザ
宮城県・秋田県以南の本州、四国、九州に広く分布する。水が比較的きれいな川の中流から上流下流の瀬の石の下や間にすみ、石のすき間をかいくぐるように泳ぐことが多く、背びれは1本、胸びれは1本、背びれが1本、胸びれが1本あり、トゲには毒線があるのでもみさわると痛い。芦田川水系での生息数はきわめて少ない。



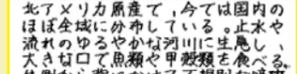
アユ
本州全域に住んでいる。天然アユは減少しているため、琵琶湖などから稚魚を取り寄せて放流している。石の表面に付いている藻も食べる。中流に多くいる。



カワムツ
本州中部以西に生息しているが、現在では関東地方でも見られる。河川の上、中流や流れのゆるやかな瀬に多くいる。なまはり意識が強く雑食性で昆虫や藻類などを食べる。太い1本の暗色の縦線があるのが特徴。



オオクチバス(別名:ブラウバス)
北アメリカ産で、今では国内のほぼ全域に分布している。止水や流れのゆるやかな河川に生息し、大きな口で魚類や甲殻類を食べる。体側から背にかけて不規則な暗斑があり、腹側が黄味を帯びた白色となっているのが特徴。特定外来種に指定されている。



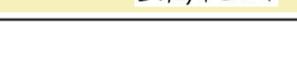
ワカツツ



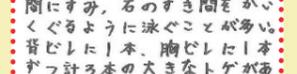
タモロコ



イトモロコ



ギギ
本州中部以前、四国、九州の東部に分布し、比較的水がきれいで、石や流木、石垣などがあるところで見られる。背びれと胸びれのとげが鋭く、つかまえると胸びれでギギギと鳴く。



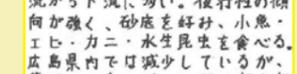
ムギツク
琵琶湖以西の本州と、九州北部に分布し、大きな石があるようなところのよどみにいる。小さなおちよどみは口が上向きになっている。すくまはげに付く水でまらう。石についている水生昆虫を食べる。



ズナガニゴイ
近畿地方以西の限られた川にしかいない。川の中流から下流域に分布し流れのゆるやかな川底に生み砂にもぐって水生昆虫などを食べる。普通のニゴイよりも体長小さいが頭と吻は長く、体側に小黒点の列がある。



ドンコ
東北を除く本州全域に住む。中流から下流に多い。夜行性の傾向が強く、砂底を好み、小魚・エビ・カニ・水生昆虫を食べる。広島県内では減少しているが、芦田川水系では、比較的安定した個体群がある。



ウナギ
太平洋側は北海道の日本海側、日本海側は石狩川以南の日本各地に分布する。背側は暗色で、腹側は白色。特別の斑紋はない。春から秋にまで水生昆虫類、小型の魚類、貝類、エビ類、カエル類などを活発にとり、成長する。



オオシマトビケラ



コイ

府中大渡橋で見つけた生物

- ・カワゲラ ・ヒラタカゲロウ
- ・ナガレトビケラ ・オオシマトビケラ
- ・ヒラタドROMシ ・コオニヤンマ
- ・カワニナ ・ミズカマキリ ・スジエビ
- ・シジミ属 ・カゲロウ目
- ・ヒゲナガトビケラ ・ヌマエビ科
- ・サナエトンボ科 ・カワトンボ科



芦田川と出口川に入れて、楽しくいろいろ取れました

魚クイズでみんながたくさん手をあげて答えたよ

府中大渡橋



流域治水について勉強しました!

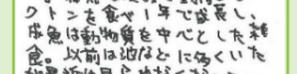
まとめ

昨年度に引き続き、一般参加者を交え実施された調査日は、天気も良く秋晴れの一日でした。府中大渡橋では貴重種のアカザや、様々な種類のいきものが確認されました。両地点とも、昨年度と同等かやや多くの種類の魚や水生昆虫などが観察され、生物の生息できる水辺や川底の環境が保たれていることが確認出来ました。また、きれいな水を示す指標生物が多く観察されたことから、芦田川・出口川の水も良好であり、様々ないきものにとって棲みやすい環境であることが確認されました。

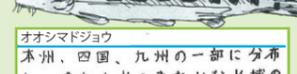
項目	地点名	
	芦田川府中大渡橋	出口川
時間	10時45分	9時50分
気温(℃)	25.5℃	28℃
水温(℃)	24.9℃	22℃
透明度	100cm以上	100cm以上
pH	7.5	8.4
COD (mg/L)	4mg/L	1mg/L
亜硝酸 (mg/L)	0.02mg/L	0.02mg/L
リン酸 (mg/L)	0.1mg/L	0.1mg/L



タモロコ
山陰地方では全域で見られる。川の中、下流域の湖沼や池などのよどみで水底にすまっている。雑食は泳いで食物プランクトンを食べる。1年で成長し、体長は動物質を中心とした雑食。以前は池などに多くいたが最近では見られなくなっている。



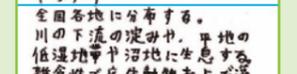
オオシマトビケラ
本州、四国、九州の一部に分布し、冷たく水のきれいな水郷の砂底にいる。眼下にとげがたまたま刺さると現れる。おぼろいりすると砂によくもぐる。川底で小型水生昆虫、底生藻類、有機物を砂と一緒に食べ、砂かけをえている。



イトモロコ
愛知県以西、九州北部まで住んでいる。中流から下流に多い。芦田川では比較的上流部に分布しており、支流のほとりでも数頭見られている。



ギンブナ
全国各地に分布する。川の下流の淀みや、平地の低湿地や沼地に生息する。雑食性で底生動物や藻類などのほか、場所によっては動物プランクトンなども食べる。ギンブナには、雄はない。



ドジョウ



オオクチバス



ワカツツ



ワカツツ



タイリクバラタナゴ



ズナガニゴイ